

鹿島灘ハマグリ浮遊幼生の移動・分散予測

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 水産総合研究センター 公開日: 2024-07-01 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 中山, 哲巖, 八木, 宏, 足立, 久美子 メールアドレス: 所属:
URL	https://fra.repo.nii.ac.jp/records/2009359

This work is licensed under a Creative Commons Attribution 4.0 International License.



鹿島灘ハマグリ浮遊幼生の移動・分散予測

水産土木工学部

研究の背景・目的

鹿島灘ハマグリ(チョウセンハマグリ)は茨城県名産の二枚貝ですが、1991 年と 1993 年の大量発生以降、大規模な発生がみられません。そこでハマグリ幼生が約 2 週間の浮遊期間にどのように移動・分散するか、流動の数値計算により再現しました。

研究成果

計算結果から、以下の点が明らかになりました。①浮遊期間に黒潮が離岸しており、北または南の一方向に風が吹き続けない場合には、幼生は鹿島灘・九十九里側の両方に残りやすい(例:1993 年)、②黒潮が野島崎に接岸していて、九十九里沖・犬吠埼からは離岸している場合には九十九里側のみに残る、③黒潮が接岸している場合には沖に流出しやすい傾向がある(例:2005 年)。

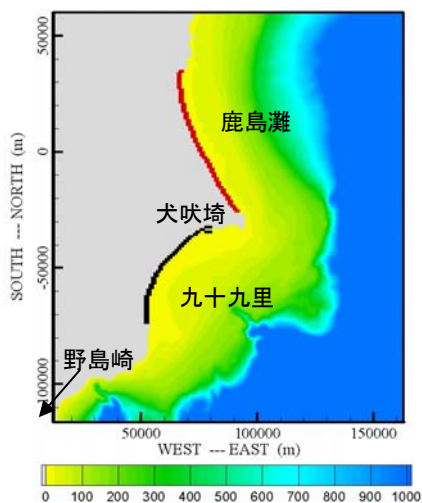
* ハマグリは生息水深が4m程度と浅いため、極浅海域での海浜流や海岸構造物の影響も考慮する必要があり、今後検討する予定です。

波及効果

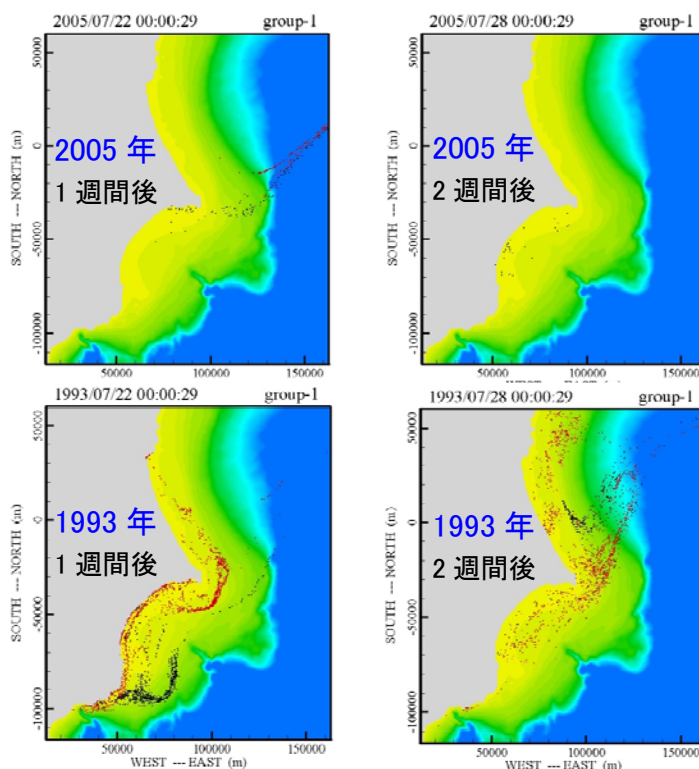
浮遊幼生の移動分散が計算により予測可能となれば、たとえば産卵母貝の適正な配置などの立案に役立ちます。

初期条件

鹿島灘と九十九里浜に均等に浮遊幼生を配置



計算結果の例



(水産基盤グループ: 中山哲巖・八木宏・足立久美子)

(独) 水産総合研究センター水産工学研究所 <http://nrife.fra.affrc.go.jp/>